

# Glocal Tenri



2

月刊 **グローバル天理** Monthly Bulletin Vol.15 No.2 February 2014

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

## CONTENTS

- ・ 巻頭言  
「おさしづ」の通読  
／深谷忠一 ..... 1
- ・ 天理教教理史断章 (77)  
家城文書⑥  
／安井幹夫 ..... 2
- ・ 天理教伝道史の諸相 (26)  
北海道の天理教①  
／早田一郎 ..... 3
- ・ 「おふでさき」の有機展開 (22)  
第三号：第百十三首～第百十七首  
／深谷耕治 ..... 4
- ・ 新宗教のブラジル伝道 (10)  
キリスト教の変容⑦  
／山田政信 ..... 5
- ・ 「いのち」をつなぐ一生死の現象 (26)  
授かる「いのち」①  
／堀内みどり ..... 6
- ・ 「襲のあわいに深く入り込んでいって…」  
をめぐって (13)  
襲のあわい——その火口⑬  
／松田健三郎 ..... 7
- ・ ノーマライゼーションへの道程 (24)  
福祉のまちづくり⑩  
／八木三郎 ..... 8
- ・ 天理参考館所蔵の漢族資料 (8)  
風俗人形  
／中尾徳仁 ..... 9
- ・ ヴァチカン便り (6)  
カソリックの改革と法王の話の内容  
／山口英雄 ..... 10
- ・ English Summary ..... 11
- ・ おやさと研究所ニュース ..... 12  
八木三郎研究員「厚生労働大臣表彰」受賞  
／第266回研究報告会：エチオピアの体育・  
スポーツ事情（梅崎さゆり）／第7回「宗  
教と環境」研究会を開催（佐藤孝則）

## 巻頭言

### 「おさしづ」の通読

おやさと研究所長 深谷忠一 Chuichi Fukaya

キリスト教には、旧約46書と新約27書の合計73巻（プロテスタントでは合計66巻）の聖書正典、仏教でも、法句経、阿含経、般若経、維摩経、涅槃経、華嚴経、法華三部経、浄土三部経、金剛頂経など多くの経典が存在します。そして、これらの聖書・経典には、本教立教以前の「十のものなら九つまで…」といわれる教えが記されているのですから、最後の一を足して十全にするためにも、本来は天理教者もこれらの全てを読むべきでしょう。

しかるに、たとえば、唐の玄奘が西域から持ち帰り漢訳したとされる『大般若波羅蜜多経』は600巻もあるといわれます。漢字の字数にして約480万字という膨大な経典で、（それを僅か276字に凝縮した般若心経ならともかく）凡人には一生かかっても読破できる量ではありません。ですから、「修理肥の教え」の聖書・経典を読み込むのは、その宗教・宗派の人や専門の学者に任すしかないかもしれません。

他方、その文脈で申せば、天理教の原典は、天理教者が責任をもって読み込まなければなりません。現状はどうでしょうか。

まず、原典Ⅰの「おふでさき」については、17号=1,711首を、少しずつ区切ってなら、一通り読んでいる人が少なからずいると思われれます。そして、原典Ⅱの「みかぐらうた」は、おつとめの地唄として集中的に学びますから、全部を諳んじている人が万余ということでしょう。

これが原典Ⅲの「おさしづ」になりますと、全巻を通読していると思える人は、筆者の周辺でも指折り数える程しかいません。若い人や信仰歴の浅い人のみならず、先生といわれる立場の人でも、索引・用語用例集や解説本に目を通していただけ。中には、読むべしで何度か通読にチャレンジした人もいますが、多くが途中で挫折しているのです。

さて、そこで教内の「おさしづ」完読者の増大に資するために、筆者なりの通読のヒントを記しますと…

まず、大事なことは、通読を始める前に、「おさしづ」に出てくる大和の方言・古語の150語ほどを、青年会本部刊の『用語用例おさしづ集』などで先に勉強しておくことです。そうすれば、取りあえずは用語の意味で躓かずに読み進めます。

次に、大事なことは、目の前の「おさしづ」をすぐに理解できずとも、“ともかく次々と読み進む”ということです。「おさしづ」は、録音技術など無い時代の毛筆による口述筆記で、抜け字・書き損じ等が多々あります。また、時代背景やその「おさしづ」を頂いた人の個別の事情が分からねば、意味・内容を理解し難いものもあります。しかるに、それらを全部探求しては容易に前へ進みません。読み進む中に分かることもありますから、止まらずに次々と読んでいくのです。

さらに大事なことは、毎日欠かさず一定量を読むことです。今日は100頁、明日は10頁という読み方では長続きしません。また、定量でも毎日数頁というのではいけません。毎日30頁の読破が理想です。何故30頁かは紙幅の都合で説明しませんが、実際にやってみれば分かります。

「おさしづ」は、7巻合計で6,308頁ですが、教会事情のお許しのお言葉を除く本文の合計は4,966頁ですから、毎日30頁を欠かさず読めば166日で読破できます。そのためには、5カ月半の間、テレビは見ない、新聞・雑誌も読まない、もちろんスマホも禁止。「あの人この頃どうしたの？」などと訝しく思われる日々を過ごす覚悟が必要です。しかし、天理教の教徒・先生と呼ばれる人ならば、「おさしづ」の摘み読みでの独善的・自己流解釈に陥らないために、“一生に一度は全巻を読み通すべきだ”と思う次第です。